

4-4 文化・芸術の振興

○丹波篠山市立文化施設4館運営の充実 **継続**

篠山城大書院、歴史美術館、青山歴史村、武家屋敷安間家史料館において、「丹波篠山国際博」と連携した事業を実施し、来館を促進するとともに、丹波篠山市の歴史文化の魅力を発信します。



酒造り唄コンサート

○丹波篠山市展の開催 **拡充**

「丹波篠山国際博」に合わせ、日本ならではの書道や茶道等の文化体験や教室等を実施し、日本文化に触れていただく機会を提供します。

○市民ニーズに沿ったホールの利活用 **継続**

文化芸術を通じ人と人が集い「交流」できる拠点として、市民の力を積極的に取り入れ、利用者が親しみやすい環境づくりに努めます。さぎそうホールの新たな活用方策として民間事業者が計画している映画上映事業について、事業者と連携し行政として可能な支援を検討します。

4-5 自然遺産に学ぶ教育の充実

○脊椎動物化石保護・活用事業 **継続**

太古の生きもの館を体験学習の拠点とし、篠山層群及び新属新種の恐竜を含む脊椎動物化石の展示や露頭の展示を行います。化石発掘体験イベントや化石クリーニング体験を、篠山層群学習プログラムとして実施します。



化石発掘体験イベント

施策の基本方向5 郷土を愛し誇りに思う人材育成の推進

5-1 ふるさと丹波篠山を愛する心の育成

○「ふるさと教育」の推進 **継続**

地域の人々とのふれあいを通して、児童生徒が伝統、文化、自然、産業、食文化等を学び、ふるさとへの誇りと愛着心を育む「ふるさと教育」を推進します。



小学生によるお城ガイド

○郷土味学講座の実施 **継続**

丹波篠山の食材を活用し、郷土料理をはじめとする豊かな丹波篠山の食文化を伝承・創造する人材を育成します。

5-2 学校給食の充実と食育の推進

○農都のめぐみ米・地元食材を活用した学校給食の充実 **拡充**

生き物や自然環境にやさしい栽培方法で作られた「農都のめぐみ米」とともに、地元野菜の安定的な使用及び地元食材の活用率向上に取り組むとともに、有機栽培野菜もできるだけ取り入れます。物価高騰が続く中、現行の給食費では不足する経費については、保護者負担を増やさず、学校給食の質を維持して提供します。さらに令和7年度は、小学校、中学校、特別支援学校（小学部・中学部）に在籍する児童生徒を子どもに持つ保護者の負担を軽減するため、1食当たりの学校給食費単価の半額を補助します。



給食の様子

丹波篠山の教育の
詳細はこちらから



令和7年度 丹波篠山の教育（概要版）

発行 丹波篠山市教育委員会事務局（兵庫県丹波篠山市北新町41）
問い合わせ 丹波篠山市教育委員会 学校教育部 教育総務課（TEL 079-552-5709）

令和7年度 丹波篠山の教育

概要版



親子でワクワクフェスティバル

教育理念

「一人一人が光り輝き、生きがいをめざす」

～子どもが自ら学び、地域とともにある学校づくり～
～学びの機会を充実し、生き生きと活躍できるまちづくり～

丹波篠山市教育委員会

はじめに

未来を担う人材の育成と幸せ多きまちづくりを

丹波篠山市の特色（美しい景観、豊かな自然・人情・文化・食等）を活かした取組（施策）で教育・子育て・スポーツ・文化・芸術等を活性化させ、子どもから大人まですべての市民の学びと生活を充実させていきます。そして、「市民誰もが生きがいを持って暮らせるまち」「子育てするなら丹波篠山」「教育を受けるなら丹波篠山」を実現し、**幸せ多きまちづくり**を進めていきます。

学校園教育においては、グローバル化の益々の進展と情報技術の急速な発展等により、変化の激しい予測の困難な時代を迎えようとしている時代に、子どもたちが主体的に人生を切り開き、人生で出会う様々な問題に積極的に立ち向かい、多様な人々と協働して、よりよい解決を図って**人生を生き抜いていく力の育成**をめざします。さらに、その原動力となる**自己肯定感（自己有用感）・達成感**を、子どもたちの主体的・自発的な活動を通して「認める」「ほめる」「励ます」を基本に育てていきます。

特に、少人数を活かしたきめ細かな指導で、子どもたちの資質・能力を伸ばし、困りごとに寄り添う「**一人一人を大切に**する教育」の実現に取り組むと共に、近年増加する「不登校児童生徒」や「発達課題のある児童生徒」に対して、子どもや家庭とのつながりを大切に、個別の事情に配慮した気持ちに寄り添う対応を心掛け、チーム学校で福祉や医療、SCやSSW等とも連携して、学校復帰のみを目標とすることなく社会的自立に向けた支援をしていきます。何よりもすべての子どもが安心して学べ、行きたいと思える「わかる授業」「楽しい学校園」をつくっていきます。

本市の学校園教育においては、ICT環境の活用や少人数によるきめ細かな指導体制の整備による「**個別最適な学び**」と、探究的な学習や体験活動を通じた「**協働的な学び**」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んできました。さらに、自己肯定感や人間関係能力を高める「**自然体験**」や目標意識や意欲・関心を高める「**地域活動体験**」も積極的に進めています。これらの視点を大事に「**令和の丹波篠山型学校園教育**」をさらに一層発展させ、市内外への発信に努めます。

加えて幼児教育や社会教育、芸術・文化・スポーツ等あらゆる分野において、心身ともに健康で社会的にも良好な多面的幸福が持続する状態「**ウェルビーイング（Well-being）の実現**」を目標に、基本的な生活習慣づくり「**眠育、食育、あそび**」、ICTの有効活用、自分らしく生きるキャリアプラン、インクルーシブ教育、コミュニティ・スクール、ふるさと教育、スポーツ・文化・芸術の振興、文化財の保全活用等の施策を展開すると共に、個人のウェルビーイング（幸福）と社会のウェルビーイング（幸福）が相互に循環して互いに高め合う「**助け合い・つながり合う**」**共生社会**の実現をめざします。

丹波篠山市教育長 **丹後 政俊**

施策の基本方向1 子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

1-1 “子育ていちばん”に向けて

○就学前の保育環境の整備 **継続**

保育士人材等を確保するため、保育現場で働きたい人を対象に「保育・教育就職フェア」及び「園見学バスツアー」を実施するとともに、保育士資格等の資格取得に係る通信教育講座の受講料等について10万円を上限に助成します。定員超過等の理由により希望したところに入所できず、遠方の保育所等に入所することになった児童の保護者を対象に、遠距離通所に係る補助を行います。

城東保育園・かやのみ幼稚園を統合、令和8年度中の完成をめざし、「(仮称)城東認定こども園」の新築整備を行うとともに、にしき保育園改修の設計業務を行います。また、篠山・たまみず・岡野幼稚園区における保育・教育のあり方の検討を引き続き関係機関等とともに進めます。



保育・教育就職フェア

施策の基本方向4 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

4-1 主体的に生きるための学びと場の充実

○「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」による図書館運営 **継続**

あらゆる世代に応じた図書館事業をボランティア等との協働によって推進します。令和7年度は、乳幼児とその保護者に対するサービスとして、保護者がゆつくり本を選んだり、読書ができる環境づくりを中央図書館でモデル的に実施します。



芦田悦子さんの絵本の読み聞かせ講座

○多様な公民館活動の充実 **新規**

市民間の交流や活動の活性化、市民活動の機会と場の提供を支援します。令和7年度は、丹波篠山公民館まつりや四季の森音楽祭を開催し、公民館施設のPRを行い、利用促進を図ります。

○丹波篠山映像祭の実施 **拡充**

映像コンテストを含めた「丹波篠山映像祭」として多種多様な催しを開催し、親しみが持てる映像祭づくりを目指します。令和7年4月から始まる「丹波篠山国際博」を盛り上げるために、市内在住の外国につながる方にも声をかけ、グローバルな視点で捉えた丹波篠山の魅力発信に向けて作品応募を促します。

○丹波篠山市史編さん事業 **継続**

丹波篠山市史編さん基本方針に基づき、丹波篠山市史編さん専門委員会及び神戸大学等と連携し、7つの専門部会で調査研究に取り組むとともに、2つの地域編部会で市民とともに編さんに取り組みます。



専門部会による資料調査

4-2 スポーツの推進

○丹波篠山市スポーツ振興官によるスポーツ振興 **継続**

スポーツ振興官の実績、経験を踏まえ、野球・ソフトボールを中心とした各競技種目のスポーツ指導者を育成、市内の子どもたちだけでなく大人も元気になる地域活性化の取組を推進します。



ベースボールクリニック

○丹波篠山総合スポーツセンター、西紀運動公園の管理運営 **継続**

指定管理者による健全な運営と安全安心な施設管理を目指すとともに、丹波篠山総合スポーツセンター、西紀運動公園を活用し、市民の健康増進を図ります。

4-3 文化財と町並みの保存と活用

○重要伝統的建造物群保存地区における町並みの保存と活用 **継続**

保存地区(篠山・福住)の環境整備と歴史的風致の向上を地区住民と連携しながら進めます。城下町地区において、伝建地区の拡大に向けた調査・研究を行います。

○丹波焼の保存と活用の推進 **継続**

日本六古窯の一つであり、日本遺産に認定されている丹波焼の歴史的価値を明らかにし、来訪者に分かりやすく伝えていくために、文化学術調査研究事業を実施します。引き続き、丹波焼の最大の特徴である登り窯の変遷を確認するために窯跡の発掘調査を行います。



丹波焼窯跡の調査

3-4 教職員の資質能力の向上

○いじめの防止等への的確な対応 **継続**

すべての教職員が、「いじめは、どの学級にも学校にも起こり得る」という認識を持ち、「いじめを生まない土壌づくり」に努めます。子どもたちの小さな変化を敏感に察知する教職員のいじめ認知能力を向上させ、また子どもたちの課題解決能力の向上を目指して、保護者や地域と情報を共有して連携を図ります。学校がいじめを発見、またはいじめの疑いを認めたとときには、各校の「いじめ防止基本方針」に基づき、学校いじめ対応チームにて適切かつ迅速に報告・連絡・相談を行い、対応します。



学校園経営研修会

○不登校の支援と未然防止への対応 **拡充**

「市不登校への対応に係る方針」に基づき、「すべての児童生徒が安全・安心に学べ、行きたいと思える学校」づくりを目標とします。多様な支援の中で社会的自立に向け、「自分の居場所や多様な学びの場」がある学校教育の充実に努めます。また、小さな心のSOSを見逃さず、関係機関や心理や福祉の専門家と連携しながら「チーム学校」で支援し、不登校の未然防止、早期対応に努めます。令和7年度は、落ち着いた空間で学習支援や生活支援を行う「校内サポートルーム」の不登校児童生徒支援員及び、教育支援センター「ゆめハウス」の児童生徒支援指導員の配置を拡充します。

○相談体制の充実 **継続**

児童生徒の悩み、心の中の課題を受け止め、児童生徒や保護者、教職員等を支える体制を充実します。いじめや暴力行為等の問題行動や不登校の未然防止及び早期解決を図るため、「心の専門家」であるスクールカウンセラーや「福祉の専門家」であるスクールソーシャルワーカーの配置・派遣を充実します。児童生徒や保護者、教職員との心の相談や発達相談・教育相談を行います。

○教職員の勤務時間適正化及び業務の効率化の推進 **拡充**

教職員が心身ともに健康を保ちながら、児童生徒一人一人と向き合える働きやすい職場づくりを進めるため、校務支援システムの活用やスクールサポートスタッフの増員、中学校に部活動推進員及び部活動指導員配置を含めた部活動の地域連携・地域移行の展開等、教職員の業務の効率化と業務負担の軽減を図り、勤務時間の適正化を進めます。



オンラインによる
校内研修

3-5 保幼こ小中高大の連携

○保幼こ連携の推進 **継続**

私立園も含め、保育園・幼稚園・こども園の保育内容、指導方法等についての情報交換を行うなど、連携を図り、幼児期の教育を充実させます。



園児の小学校体験

○幼こ小連携の強化 **継続**

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、地域や各園の実情に応じたアプローチカリキュラム（幼児期の学びが小学校の生活や学習で活かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラム）とスタートカリキュラム（小学校に入学した1年生が、園での遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム）を活用し、幼稚園・こども園と小学校の連携の充実に努めます。



幼児教育と小学校教育の
連携・接続研修

1-2 子どもの根っこを育てる環境づくり

○食育の推進 **継続**

子どもの「食」に関する意欲や親子のふれあいの時間を増進するため、「親子で作れる！料理レシピ」をホームページで公開します。社会情勢に伴う物価高騰により、現行給食費では不足する経費については、保護者負担を増やさず公費で負担し、創意工夫し園給食の質を維持して提供します。

1-3 乳幼児教育の充実

○諸感覚を発達させる保育・教育活動 **継続**

次代を担う子どもの誕生を祝うとともに、豊かな感性と自然への愛着を育むため、丹波篠山産材を使った積み木セット「丹波篠山 森からのおくりもの」を贈呈します。



積み木の贈呈

○乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度） **新規**

こども園、保育園等に通っていない0歳6カ月から満3歳未満の子どもを対象に、月一定時間の利用枠の中で、就労要件を問わず、時間単位でこども園等を利用できる「乳児等通園支援事業」を令和8年度から開始できるように受入施設の選定を行います。



ささやま子育て
ふれあいセンター

1-4 子ども・子育て支援の体制づくり

○こどもまんなか社会の推進 **新規**

子どもや子育て中の人々が気兼ねなく様々な制度やサービスを利用できるよう、様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人々が子どもや子育て中の人を応援する社会「こどもまんなか社会」の実現に向けて、「(仮称)丹波篠山市こども計画」の策定に取り組みます。

○子育ていちばんPR **継続**

市広報や市公式LINE、インスタグラムを活用し、子育て施策やイベント等の啓発活動を積極的に行います。また、市内の子育て支援団体と連携し、遊びを通じて親子の絆を深める機会を提供するとともに、丹波篠山の子育ていちばんの取組を発信する「親子でワクワクフェスティバル」を開催します。

施策の基本方向2 生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進

2-1 確かな学力の確立

○主体的な学習習慣の育成 **継続**

一人一台パソコンの学習環境やICT教材等を活用し、児童生徒が「自ら学ぶ」学習習慣を育成します。



端末を活用した探究的な学び

○読書活動の充実 **継続**

読書に親しむことや、自分の思いや考えを文章にまとめる活動等を通して、児童生徒の言語能力の向上を図ります。

○国際理解・多文化共生教育の推進 **継続**

外国に関する様々な知識や経験をもつ地域人材をゲストティーチャーとして招いた授業を通して、異文化について理解し、国際的視野に立って主体的に考え、行動しようとする態度や共に生きようとする意欲・態度を育成します。



留学生との文化交流

2-2 豊かな心の育成

○学校における人権教育の充実 **継続**

全ての教育活動を人権教育の視点で捉え、自分の大切さとともに他の人の大切さも認めることができる態度や資質を育成します。同和問題が人権問題の重要な柱であると捉えつつ、いじめ、インターネットによる人権侵害、性の多様性、ヤングケアラー等、今日的な人権課題も含め、人権に関わる様々な課題について考える機会を設け、児童生徒の人権意識を高めます。

○帰国・外国人園児児童生徒支援事業の充実 **継続**

NPO法人篠山国際理解センターと連携し、母語支援・日本語指導が必要な帰国・外国人園児児童生徒に対して、母語支援や日本語指導を実施することにより、生活適応による心の安定や学力保障、進路指導の充実を図ります。



自然学校での磯観察

○体験活動の充実 **継続**

小学5年生対象の「自然学校」や中学2年生対象の「トライやる・ウィーク」等の体験活動を通して、豊かな感性や創造性を高め、ふるさと意識を育むとともに自らのあり方や生き方を考えるきっかけになるよう、主体性を尊重した活動を推進します。

○あいさつの実践 **継続**

日頃からあいさつが交わせる、明るく温かいまちづくり、学校づくりを目指し、学校・家庭・地域が連携した啓発・実践活動に取り組みます。



学校・家庭・地域が連携した「あいさつ運動」

2-3 健やかな体の育成

○部活動の新たな形に向けて **拡充**

中学生がスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりを目的に、令和8年度からの休日の部活動の地域移行（学校部活動から地域部活動への転換）を推進します。関係団体と連携し、種目の実情に応じて、学校に代わり地域クラブが休日活動を担う「地域移行」や、専門的な知識と技術を有する部活動指導員が、教職員に代わり部活動指導を行う「地域連携」の実施型で、持続可能な活動機会の創出を目指します。「学校単位」から「地域単位」の活動へ、「教員」主体から「地域指導者」主体の指導体制へと移行する学校部活動改革について、保護者への周知徹底を図ります。

2-4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

○キャリア教育の推進 **継続**

各教科や児童会・生徒会活動、学校行事等を通じた社会参画や、保護者や地域の人々、関係機関等と連携した多様な体験活動、中学2年生を対象に自らの生き方や将来について考える事業「夢プラン」の実施等の教育活動全体を通じ、子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育成します。



地域イベントでの農作物販売

2-5 特別支援教育の充実

○早期発達支援室の運営 **継続**

発達障害及び知的障害のある幼児に対し、篠山養護学校内の早期発達支援室において、通所により、個々の成長発達及び円滑な就学期への移行を促すための支援を行います。



「ころころげーむ」つくったよ

○「個別の教育支援計画（サポートファイル）」を活用した関係機関との連携強化 **継続**

一人一人の教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画を保護者とともに作成し、各保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校の学校園間で確実に引き継ぎ、情報共有することで、一貫した指導・支援を行います。

施策の基本方向3 子どもの学びを支える環境づくりの推進

3-1 安全安心で質の高い学習環境の整備

○地域に信頼される安全で安心な学校園づくり **継続**

学校園安全計画等、各種マニュアルに基づく訓練や研修、施設の安全点検を通して、事故の未然防止、救急対応に係る校内体制を充実させます。また、関係機関と情報の共有化を図り、家庭・地域と連携した安全で安心な教育環境づくりを推進します。



不審者対応訓練

○防災教育・防災体制の充実 **継続**

阪神・淡路大震災、東日本大震災や能登半島地震等の経験や教訓を踏まえ、風水害を含む様々な自然災害から自らの生命を守るため、地域の災害特性を理解した上で正しい知識や技能を身につけ、主体的に判断し、行動する力を育みます。



心肺蘇生法学習

○GIGAスクール構想における学びの充実 **継続**

デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用した授業づくり等、児童生徒一人一台パソコンの環境におけるICTの効果的な活用を一層促進します。また、遠隔教育システムを活用し、多様性のある学習環境や専門性の高い教師による授業、個に応じた指導など、児童生徒の学びの質の向上を図れるよう支援します。

3-2 地域とともにある学校園づくり

○コミュニティ・スクールの推進 **拡充**

学校園、保護者、地域住民等が熟議（熟慮と討議）と協働を通して課題を共有、目標・ビジョンを持って、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校園づくり」に取り組みます。全幼稚園・こども園への学校運営協議会制度を導入に向け、取り組みます。



学校運営協議会委員と生徒が熟議

○放課後子ども教室の開催 **継続**

放課後に小学校等の施設を利用し、普段の学校や家庭における生活の中だけでは関わることのできない様々な年代の地域住民等との交流活動を通して、子どもたちの生きる力を育みます。令和7年度は岡野、城東、多紀、西紀、味間、そして新たに篠山を加えた6小学校区で取り組みます。



岡野子ども教室

3-3 家庭の教育力の向上

○親子の絆づくりプログラム事業の実施 **継続**

親の育児不安を軽減させ、親自身が心身ともに安定して子どもにかかわれる状況を作るための育児知識の提供と情報交換や仲間づくりの機会を提供します。生後2か月から5か月までの子育てをする親が、必要な育児知識を学び、ともに助け合える仲間づくりができるよう、親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」及び「きょうだいが生まれた！」の講座を開催します。



親子の絆づくりプログラム「きょうだいが生まれた！」